

結婚移住女性の結婚満足度が養育効能感に及ぼす影響について
: 近隣愛着の媒介効果を中心に

○韓国放送通信大学社会福祉学科 (崔美英)

キーワード: 結婚移住女性、結婚満足度、養育効能感、近隣愛着

1. 研究目的

1990年の韓国社会で国際結婚は4,710件で、合計結婚件数39万9,312件の1.2%であり、韓国での国際結婚移住女性は一年に619件に過ぎなかった。2002年ごろからは国際結婚仲介業者が、フィリピンやタイなどの現地人と事業提携を結んで国際結婚の件数を継続的に増加させており、結婚移住女性は毎年大幅に増加し、2018年には1万6,608人が韓国社会に移住した(統計庁、2019)。しかも2019年3月現在、韓国社会の結婚移住女性は13万3,523人に達しており、国籍別中国が4万6155人、ベトナムが4万610人、韓国系、中国同胞が1万4,433人、日本が1万2,598人、フィリピン1万1,469人などの順で、韓国社会に留まっている(法務省出入国/外国人政策本部、2019)。

結婚移住民が持続的に増加する傾向に基づいて韓国社会は多文化社会に変化する過程で、結婚移住民に対する社会的関心が高まっており、これにより、結婚移住女性の家庭の子育ての問題についての研究も断続的に増加している(イ・ジョン、2018;キム・ミヨン、2017;西洋ある、2015;イギョンスク、2015;バクスギョン、アンソンフイ、2014)。

多文化家庭は、国際結婚という特殊性により、異なる文化や言語を持つ人々が出会い、同じ価値意識を学び、育った一般家庭よりも夫婦の葛藤の原因は、より多様である(キム・ジンヒ、2013)。夫婦の葛藤を解決する方法も夫婦が共同の合意点を見つける方法ではなく、一方、一方的に解決しようとする立場をとる場合が多く、家庭内暴力の原因にもなりして、結婚生活の肯定的な面と否定的な面はそのまま子供の養育方式にも影響を及ぼしている。

ほとんどの結婚移住女性は短期間にわたって韓国での移民を決定し、移住して生活するためのコミュニケーション能力が未熟で、周囲の環境に関する情報が不足している傾向を示し、新しい家族と適応するためにも、異なる文化や言語の違いで生じる葛藤のために、家族関係の形成にも多くの困難を経験されている(キム・ミヨン、2017)。

一方、結婚移住女性にとって近所は生活の基盤であり、近隣の環境として、男性に比べて、近所で過ごす時間が長く(バクヒョスク、イギョンファン、2018)、近所で様々な活動が行われるため、近所近隣環境の影響をより多く受けることができている。近所近隣環境に応じて、結婚移住女性の近所満足度、近隣愛着、移住意思などは、自分たちの生活の質にも影響を与えるものであり、近所愛着は、住民が地域社会に対して持っている感性連帯と近所の環境の一般的な満足度(Woldoff、2002;グアクヒョングン、2008年)、近所近隣環境に長く滞在結婚移住女性に、より多くの影響を与えることができる。

これまで近隣環境の研究は、イ・ジョン(2018)、チェ・ジニル(2016)、ジョンユンオク

(2014)、チェミヨウン外(2014)、グァクヒョングン(2013、2011、2009年)などの研究があるが、結婚移住女性に適用した事例は多くない、結婚移住女性の生活にどのような影響を与えるの実証的に分析した研究はほとんどない。

従って、本研究では、韓国社会に流入した結婚移住女性の結婚満足度と近所愛着が養育効能感にどのような影響を与えるかを考察し、結婚満足度と養育効能感の影響関係で近所愛着の媒介効果の効果を分析することにより、結婚移住女性の生活の質と社会と子育て効能感向上のための政策と実践案を提示することを目的としている。

2. 研究の視点および方法

本研究の目的を達成するための資料収集は2017年9月30日から10月21日まで行われ、多文化家族が密集している京畿道始興市と安山市地域の多文化家族支援センターを利用して結婚移住女性の合計234人の応答結果が最終的な分析に活用された。調査教育を履修した調査員が多文化家族支援センターを訪問し、1:1の面接を実施し、面接調査中韓国語能力不足でアンケート作成が困難な場合には、中国語、ベトナム語、英語に翻訳されたアンケートを活用した。

データ分析の方法は、SPSS 22 Statistics 統計分析パッケージプログラムを活用し、調査対象者の一般的特性についての頻度分析を実施した。主な変数である結婚移住女性の結婚満足度と近所愛着、子育て効能感の技術統計と相関分析を実行し、結婚満足度と養育効能感の関係で近所愛着の媒介効果を検証するために、位階的回帰分析を実施した。

3. 倫理的配慮：韓国社会福祉学会の倫理規定のガイドラインに基づいて作成した。

4. 研究結果

分析の結果、結婚移住女性の結婚満足度が養育効能感に有意な影響を与えることを確認しており、結婚満足度と養育効能感の関係で近所愛着が高いほど養育効能感に肯定的な影響を与えることが分かった。これをもとに、近所愛着と子育て効能感を向上させることができる代わりに、多文化政策と実践的含意を議論した。

5. 考察

本研究は結婚移住女性に対する結婚満足度が養育効能感にいかなる影響を与えるのか、そして町内愛着が養育効能感に媒介効果を現わすかを分析した。具体的に結婚移住女性に対する結婚満足度が高いほど養育効能感が高いことが明らかになった。結婚満足度が養育効能感に影響を及ぼす要因であることを確認した。また、結婚満足度と養育効能感の関係で町内愛着の媒介効果があることが明らかになって地域社会が結婚移住女性の人生と養育効能感に影響を及ぼす要因になることを確認することができた。それにもかかわらず、本研究は多文化家族支援センターを利用する結婚移住女性に限定して研究がなされたので全体結婚移住女性に一般化するのは限界があることを明らかにして、今後より一層深い多文化政策および社会統合と彼らの人生の質向上のためのより一層多様な研究が進行されることを望んでいく。